



薬学部 体験実習メニュー

日程	担当	タイトル	概要
6月18日	城田 起郎 先生	まると漢方体験	この体験では、午前と午後で2種類の体験を行います。まず、午前部では、身近な食べ物から2種類の生薬を作る体験を行います。そして、午後部では、漢方薬の一つである「葛根湯（カコントウ）」に含まれる生薬（薬草等の薬効部分を加工したもの）について紹介し、皆さんには、実際に生薬に触れて頂きます。また、漢方薬本来の飲み方である煎（せん）じの実演等も行います。是非気軽に遊びに来てください。
7月23日	阿部 学 先生	白衣を着て調剤、薬剤師を体験しよう！ ～軟膏剤の調剤～	普段より塗り薬を使う機会は多くあります。中には医師の指示でいくつかの薬を混ぜて使うこともあります。ここでは青い軟膏と白い軟膏を混ぜ合わせる、塗り薬の調製を行います。一緒に軟膏剤を実際に作ってみましょう！
	永野 大輔 先生	白衣を着て薬剤師を体験しよう～無菌調製～	薬剤師の主な業務に注射薬の無菌調製があります。注射薬は、体の中に直接投与されるため、普通の環境では調製することができず、無菌的な場所で調製する必要があります。その、無菌調製を実際と同じように、無菌手袋、注射器※、クリーンベンチを使って無菌調製を体験してもらいます。普段触ることのないものですので、ぜひ体験してみてください。 ※針は普通の金属製の針ではなく、安全のためプラスチックの鋭利でない針を用います。
8月5日	神田 循吉 先生	散剤、軟膏剤の調剤体験	散剤の調剤では、錠剤を乳棒・乳鉢を用いて粉碎し散剤に作りかえる手技に挑戦してもらいます。また、軟膏剤の調剤では、複数の軟膏剤を均一に混ぜ合わせて容器につめる手技に挑戦してもらいます。これらの調剤体験を通して、薬剤師の調剤業務の一端と薬学部の学生実習の一部を体験してもらいます。
8月6日	神田 循吉 先生	散剤、軟膏剤の調剤体験	散剤の調剤では、錠剤を乳棒・乳鉢を用いて粉碎し散剤に作りかえる手技に挑戦してもらいます。また、軟膏剤の調剤では、複数の軟膏剤を均一に混ぜ合わせて容器につめる手技に挑戦してもらいます。これらの調剤体験を通して、薬剤師の調剤業務の一端と薬学部の学生実習の一部を体験してもらいます。
8月20日	磯邊 浩和 先生	えっ！黒茶色のうがい液が消えるの!?-さ まざまなアルコール製剤-	黒茶色のうがい液で知られるポビドンヨードは、医療現場において、正常な皮膚、粘膜および創傷、手術野やカテーテル挿入部位などの消毒に用い、とても大切な消毒薬です。一方で、衣類、白衣等にこぼしてしまった際は、水や洗剤につけてもなかなか落ちません。今回、皆さんで魔法の薬を調製（作成）し、化学反応を見て体験しましょう。
	宮下 しずか 先生	白衣を着て調剤、薬剤師を体験しよう！ ～軟膏剤の調剤～	軟膏剤の調剤では、治療上必要な場合、複数の薬剤を混合して調製することがあります。この実習では、実際の調剤器具を使って「2種類の軟膏剤を均一に混ぜ、容器に充填する」操作に挑戦し、薬剤師業務の一端を体験します。
9月17日	阿部 学 先生	白衣を着て調剤、薬剤師を体験しよう！ ～軟膏剤の調剤～	普段より塗り薬を使う機会は多くあります。中には医師の指示でいくつかの薬を混ぜて使うこともあります。ここでは青い軟膏と白い軟膏を混ぜ合わせる、塗り薬の調製を行います。一緒に軟膏剤を実際に作ってみましょう！
10月22日	永野 大輔 先生	白衣を着て薬剤師を体験しよう～無菌調製～	薬剤師の主な業務に注射薬の無菌調製があります。注射薬は、体の中に直接投与されるため、普通の環境では調製することができず、無菌的な場所で調製する必要があります。その、無菌調製を実際と同じように、無菌手袋、注射器※、クリーンベンチを使って無菌調製を体験してもらいます。普段触ることのないものですので、ぜひ体験してみてください。 ※針は普通の金属製の針ではなく、安全のためプラスチックの鋭利でない針を用います。
12月17日	宮下 しずか 先生	白衣を着て調剤、薬剤師を体験しよう！ ～軟膏剤の調剤～	軟膏剤の調剤では、治療上必要な場合、複数の薬剤を混合して調製することがあります。この実習では、実際の調剤器具を使って「2種類の軟膏剤を均一に混ぜ、容器に充填する」操作に挑戦し、薬剤師業務の一端を体験します。
3月10日	磯邊 浩和 先生	えっ！黒茶色のうがい液が消えるの!?-さ まざまなアルコール製剤-	黒茶色のうがい液で知られるポビドンヨードは、医療現場において、正常な皮膚、粘膜および創傷、手術野やカテーテル挿入部位などの消毒に用い、とても大切な消毒薬です。一方で、衣類、白衣等にこぼしてしまった際は、水や洗剤につけてもなかなか落ちません。今回、皆さんで魔法の薬を調製（作成）し、化学反応を見て体験しましょう。



薬学部 模擬講義メニュー

日程	担当	タイトル	概要
6月18日	星名 賢之助 先生	分子のパスポート: 脂溶性と水溶性が薬物吸収に及ぼす影響	この講義では、薬物の吸収と分子の溶解性の関係を探ります。 特に、薬物のpHの変化がイオン型と分子型の比率、そして薬物の水溶性から脂溶性への変化にどのように影響するかに焦点を当てます。 具体的な例と映像を用いて、これらの概念を視覚的に理解します。
	坂爪 重明 先生	薬学生(薬学部)の進路について	薬学生(薬学部)は卒業後に様々な職種に従事し、活躍しています。活躍の場は、薬局・病院などの医療機関、薬務行政などの公務員、麻薬取締官、医薬品開発・医薬品関連企業などです。本学の卒業生の活躍する場を紹介し、薬剤師の役割について説明します。
7月23日	川原 浩一 先生	アスピリンから学ぶ「痛み」「発熱」のメカニズム	アスピリン(アセチルサリチル酸)は、バイエル社が19世紀に生み出した最も古い合成医薬品のひとつです。しかし、なぜアスピリンが痛みに効くのか、当時は不明でした。本講義では、アスピリンの作用機序研究から明らかとなった生命体の「痛み」「発熱」のメカニズムを紹介します。
8月5日	富永 佳子 先生	意外と知らない薬剤師の仕事と活躍の場 ～今後一層求められるスキルとは～	薬剤師は専門的な知識や技術だけでなく、今後一層患者さんとの直接的な関わりやチーム医療における貢献が必要とされます。また、薬剤師資格の取得後、医療現場以外の活躍の場も数多くあります。幅広い職能発揮のために必要なスキルとは何かについて考えます。
8月6日	小室 晃彦 先生	ウイルスとは、現在のコロナ変異株亜種、ワクチン	コロナウイルス感染症の流行から2年以上が経ち、海外ではマスク規制なしの国がある中、日本ではまだマスクが外せない日々が続いています。このミニ講義ではそもそもウイルスとは何なのか、感染の仕組み、新型コロナウイルス、ワクチン、変異ウイルスなどについてお話しします。
	岩田 武男 先生	薬のちから	C型肝炎はC型肝炎ウイルスが感染することで発症する肝臓の病気、最終的に肝がんに進行することがある恐ろしい病気ですが、現在では画期的な薬が開発されてほぼ完全に治るようになりました。その治療の歴史と現在の薬がC型肝炎を治すしくみについて説明します。
8月20日	朝倉 俊成 先生	お薬と上手に付き合う方法	「お薬は正しく使用しましょう。」では、「正しく使用」するためにはどうすれば良いのでしょうか。その第一歩は、患者さんがお薬についてよく知ることです。そこで薬剤師は、患者さんにお薬の情報をわかりやすく説明しています。今回は、この“服薬説明”の場面に焦点を当てて、患者さんと薬剤師の間で上手にコミュニケーションを取ることが大切であることをご紹介します。
	宮本 昌彦 先生	ヒトも薬も同じモノ？	ヒトをはじめとするイキモノと、そうではないモノの違いは何でしょうか？実は薬学ではイキモノを「物体」として捉える見方が重要です。この模擬講義では、大学1年生向けに実施している講義内容を一部改変して紹介し、ヒトや薬を化学の視点から探っていきます。
9月17日	岩田 武男 先生	がんは遺伝する？	「がん」は遺伝子に変化が生じることで発症します。遺伝子の変化は生まれた後に生じるものがほとんどですが、親の変化をもった遺伝子を子供が受け継ぐことによって発症する確率が高まる「遺伝性のがん」も少しですが存在します。その遺伝するしくみと検査方法について説明します。
10月22日	齊藤 幹央 先生	薬物治療成功のキーパーソンは薬剤師 ～臨床現場で求められる薬剤師のチカラ～	病気の治療の大半は薬物療法が必要不可欠です。薬剤師の使命の本質は、薬物療法の安全性(副作用など)を管理し、薬が本来有する有効性を最大限に引き出すことが責務です。 個々の患者さんに応じた薬の適正使用、すなわち、薬物治療成功のキーパーソンは薬剤師です。近年、薬剤師業務は多岐に渡り、医療全体の質の向上を図る上でも、薬剤師の貢献が鍵となっています。そんな、薬剤師業務の遣り甲斐を簡単にご紹介いたします。
12月17日	田辺 顕子 先生	未定	未定
	富塚 江利子 先生	栄養と健康～薬剤師による健康増進と栄養の関わり～	人々の健康の維持・増進を支援することは、薬剤師の役割の一つとなっています。 栄養の摂取や食生活は、多くの疾病、特に生活習慣病との関連性が深いことが知られています。よって、栄養についての理解を深め、それを踏まえ食生活の改善を行うことは、健康の維持・増進と病気の予防につながります。本講義では、栄養の基礎知識と病気との関連についてお話しします。
3月10日	森山 雅人 先生	がんと薬	がんは本邦の死因の第1位で、日本人が一生のうちにがんと診断される確率は2人に1人というデータもあり、誰もがかかってしまう可能性のある病気だといえます。がんの患者さんに使う薬は数多くあり、それらはがんを治療したり、症状を良くしたり、痛みや苦痛を和らげたりするために使用します。近年、がんの治療薬は急速な進歩を遂げています。そんながんと薬について簡単に説明します。